

Monthly Report

「仙台大学GAMESPONSOR」 仙台89ERSホーム戦を彩る



パフォーマンスを披露する漕艇部とマーチングバンド部

バスケットボール男子のBリーグ2部（B2）仙台89ERSの第8節ホームゲーム（vsファイティングイーグルス名古屋）が仙台市太白区のゼビオアリーナで行われ、仙台大学は「GAMESPONSOR」として協賛しました。

ハーフタイムは本学の見せ場です。今秋、ボート男子の全日本大学選手権で2年連続優勝を遂げた漕艇部と、先ごろ創部したばかりのマーチングバンド部によるパフォーマンスを披露。さらに来年度発足する女子駅伝チームについても紹介しました。

一方、会場内には学校法人朴沢学園のブースを設置。明成高校（現仙台大学附属明成高校）出身、NBAスター八村塁選手の等身大パネルに触ってもらったり、本学マスコットキャラクター「エスユーウォー」キーホルダーを配布したりしてブースターに喜んでもらいました。

この日の試合は仙台89ERSが勝利しましたが、MVP賞のプレゼンターを、本学が招へいしている白石市・柴田町東京2020オリ・パラホストタウン親善大使のセベツ・アリーナさんが務めました。

仙台89ERSと本学は2018年よりアカデミックパートナーシップ協定を結んでいます。



＜ 目 次 ＞

・「仙台大学 GAMESPONSOR」 仙台 89ERS ホーム戦を彩る	1
・ 大学部活動から学ぶ	2
・ 14年連続31度目の東北地区大学サッカーリーグ優勝／男子サッカー部 ・ 体操女子、六大学選手権を開催／本学は2位 ・ 漕艇部が柴田町長にエイト初優勝と男子総合2連覇を報告	3
・ 庄巻の全勝優勝、インカレに弾み／男子バレーボール東北秋季リーグ ・ 日本ハンドボール選手権東北ステージ51年ぶり2度目の優勝／男子ハンドボール部 ・ 女子バスケ部4年連続18回目のインカレ出場権を獲得／リーグ戦準優勝	4
・ 仙台89ERS を側面支援 選手の体調管理「見える化」へ：私立大学研究ブランディング事業／第2弾 ・ 硬式野球部2名がオリックス入団へ／指名あいさつ ・ 高齢者向け運動指導を学ぶ／健康福祉学科	5
・ 日本生涯スポーツ学会第22回大会 本学よりオンライン配信で開催	6
・ 芝草通信 NO. 19	7
・ 漕艇部が宮城県副知事にエイト初優勝と男子総合2連覇を報告 ・ 東北地方更生保護委員会委員長感謝状授与式 ・ 「高校スポーツの安全を守る」 Vol. 31	8

学生の活躍や、取り組みなどをご存知でしたら広報室までお寄せください。

Monthly Reportで紹介する他、報道機関にも旬な話題を提供して参ります。

本誌へのご意見・ご質問等がありましたら広報室までご一報ください。

仙台大学 広報室

直通 0224 - 55 - 1802

Email kouhou@sendai-u.ac.jp

大学部活動から学ぶ

仙台大学 講師 田口直樹

私は大学の教育と部活動の現場に携わってきました。部活動の現場としては選手のトレーニングやアスレティックリハビリテーションなどのコンディショニングについて管理し指導する立場でありました。その後活動していく中で様々な疑問が生まれ、大学院にてアスリートのスポーツ医学を中心とした動作解析や身体特性の詳細について研究をしました。これらの課題に取り組み、エビデンスを積み上げていくことにより部活動の現場指導に多くのことを還元することができました。しかしながら、部活動に関わっていくとアスリートとしてコンディショニングを整えていくためには、部活動以外での生活環境についても目を向ける必要があると感じるようになりました。



組織の重要性

そうなるに部員一人一人の意識の変革が必要だと考えるに至り組織の重要性について考えるようになりました。その中でもチーム理念（philosophy）やリーダーシップに注目しました。経営理念の定義（北居・松田2004）は、理念は上位概念として変らないものであり、創設時から伝えられる組織の基軸となるもので抽象的な理想を示しており、方針は下位概念として、企業環境の変化によって柔軟性を有し、変化することができる、とあります。またこれらは内部統合機能と外部統合機能への効果が期待されており経営理念を具現化し、組織成員への浸透が重要になります。このような経営理念の浸透が部活動のチームにも応用できると感じ、部員の行動変容につながると考えました。併せて集団における目標や目的への専心を促し、集団の他のメンバーの態度や先入観に重大な変化をもたらすプロセスを重視する変革型リーダーシップも重要な要素であると感じています。チーム全体でこの2つを意識できる環境が、チームへの変革を起こしパフォーマンスはもとより社会で活躍する人材になっていけるのではないかと考えています。これらを明確なものにするためには真摯にスポーツや体育の様々な問題群に向き合い、自らの考えを鍛えることを使命とする体育原理の探求および研究、また学生教育の現場での経験を深めていく必要があると感じています。まさに体育学部を擁する仙台大学の中にはスポーツや体育におけるさまざまな課題が身近に感じられる環境であります。これらを活かしてさまざまな課題を学生とコミュニケーションをとって多角的に学んでいきたいと思ひます。建学の精神である「実学と創意工夫」を大学にある身近な教材の宝庫から実践していければと考えております。スポーツ科学の英知が集まった仙台大学で学生とともに大きく成長できるよう精進していきたいと思ひます。



大学でのスポーツ動作解析実験



部活動の現場にて

14年連続31度目の東北地区大学サッカーリーグ優勝／男子サッカー部

男子サッカー部が14年連続31度目となる第45回東北地区大学サッカーリーグで優勝を果たしました。

本学は11月15日（日）に宮城県松島町・松島フットボールセンターで行われた最終節、東北学院大戦に勝ち、この結果リーグ戦成績7戦全勝とし優勝しました。

結果は以下の通り

仙台大学 6（4-0、2-0）0 東北学院大学

得点者

嵯峨理久（体育4年）3、薄葉迅人（体育4年）2、樋口颯太（体育3年）1



14年連続リーグ優勝を成し遂げた選手たち

今回の優勝で来年1月に開催予定となる全国大会（大会名・場所いずれも未定）の出場権を得ました。

コロナ禍で遠征や対外試合などが制限される中、2ヶ月にわたる試合と共に成長することができました。多くのサポートや応援をいただきありがとうございました。

<男子サッカー部>

体操女子、六大学選手権を開催／本学は2位



運営面では衛生管理に十分留意し進めた



大会終了後は大学の垣根を越えて選手全員で記念撮影

体操女子の第43回六大学選手権大会が11月22日（日）、本学で行われました。加盟する日本体育大学、国士舘大学、静岡産業大学と本学が出場（中京大学、武庫川女子大学は欠場）。団体総合は日体大が制し、本学は2位でした。大会開催は次年度へ向けて飛躍を期するのが目的。選手たちは無観客のなかでの演技でしたが、他大学との競い合いということもあり、試合勘を養って大いに刺激を受けたようでした。同日は3大学から選手22人をはじめ指導スタッフら総勢40人が来校。本学は新型コロナウイルスの感染拡大防止を定めたガイドラインに沿って、健康管理カードの提出を求めるなど衛生管理に留意して運営に当たりました。なお男子の六大学選手権大会（日体大、駒澤大、国士舘大、静岡産業大、九州共立大、本学）は11月8日（日）、静岡産業大を会場に行われました。

<体操競技部>

漕艇部が柴田町長にエイト初優勝と男子総合2連覇を報告

11月12日（水）柴田町役場で滝口茂柴田町長に漕艇部が10月に埼玉県戸田市で行われた第47回ボート全日本大学選手権で男子エイト初優勝と男子総合2連覇の報告をしました。

信夫涼主将は「柴田町の素晴らしい環境のもとエイトで勝つという強い気持ちをもって取り組んできました。その結果が優勝につながりました」と報告しました。滝口町長は「みなさんの努力と阿部監督の指導の結果が優勝につながったのだと思います。柴田町に明るいニュースを届けてくれてありがとう」と選手をたたえました。

また同日、本学を応援する「川交会・柴田町ボート協会」にも優勝を報告しました。毎年、現地に行って応援する児玉裕雄 柴田町ボート協会会長は「今年はコロナの影響で残念ながら現地での応援は叶いませんでしたが、自宅からライブ配信で応援していました。柴田町ボート協会ができて10年が経ちました。念願のエイトの優勝を果たしてくれて本当に嬉しく思います」と話してくれました。



圧巻の全勝優勝、インカレに弾み／男子バレーボール東北秋季リーグ

第56回東北バレーボール大学男子リーグ戦で本学が栄冠を勝ち取り、全日本インカレ（11月30日開幕・東京都内）への出場権を得ました。

リーグ戦最終節の11月1日（日）、本学は仙台大学第2体育館で東北学院大学と対戦しスコア3－0で勝利。この結果、リーグ戦成績を7勝0敗としました。

チーム一同、全日本インカレに向け精進してまいる覚悟です。ご声援よろしくお願いします。



最終節の記録次の通り。

仙台大学 3（25-17、25-18、25-22）0 東北学院大学

<男子バレーボール部>

日本ハンドボール選手権東北ステージ51年ぶり2度目の優勝／男子ハンドボール部

本学男子ハンドボール部が10月31日（土）、11月1日（日）に岩手県花巻市で行われた、第72回日本ハンドボール選手権大会東北ステージ兼第57回東北総合ハンドボール選手権大会において、51年ぶり2度目の優勝を果たしました。

今大会の結果により、東北地区代表として、令和2年度 第72回日本ハンドボール選手権（男子の部）（12月2日開幕・岡山県岡山市内）への出場権を獲得しました。

注）日本ハンドボール選手権は、国内の高校以上の全てのチームを対象とした、国内最高位の大会です。各都道府県、各ブロックの予選を勝ち抜いた地域代表と、日本ハンドボールリーグ所属の24チームがNo.1を争う大会です。



シュートを放つ藤平（健康福祉2年・羽後高）

試合結果は次の通り

準決勝 仙台大学 25（10-8、15-11）19 HC岩手

決勝 仙台大学 22（5-12、10-10）15 秋田大学

<男子ハンドボール部>

女子バスケ部4年連続18回目のインカレ出場権を獲得／リーグ戦準優勝

本学女子バスケットボール部が4年連続18回目となる全日本大学バスケットボール選手権大会（12月開幕予定・東京都内）の出場権を掴みました。

10月23日～25日（山形県・山辺町民総合体育館）、31日～11月1日（青森県・青森中央学院大学）に第21回東北大学バスケットボールリーグ兼女子67回東北大学バスケットボール選手権大会が行われ、4勝1敗で準優勝となりました。

試合結果は以下の通り

仙台大学 ○20-0 弘前大学（放棄）

×84-89 山形大学

○89-77 福島大学

○78-70 富士大学

○72-60 東北学院大学

今後も女子バスケットボール部の応援をよろしくお願いします。

<女子バスケットボール部>



仙台89ERS を側面支援 選手の体調管理「見える化」へ：私立大学研究ブランディング事業／第2弾

本学が男子バスケットボール、Bリーグに所属する仙台89ERSの競技力向上をサポートしている活動の報告第2弾です。

ご覧ください。写真はチームの鎌田選手（背番号18）が「アラート」（体調管理で異常な数値を知らせる機能）についての項目をアスレティック・トレーナーから説明を受けている場面です。シーズン開幕から1カ月。選手たちはこのように自分の体調がどのようなレベルにあるかを知り、練習や試合に臨んでいます。



本学はチームに「ONE TAP SPORTS」と呼ばれる、選手の体調管理をクラウド化するソフトを導入。チーム内で情報共有が進み、選手たちもより一層コンディショニングに注意を払うようになりました。

今回の取り組みは「私立大学研究ブランディング事業」の一環です。本学はここで得た知見を地域のスポーツ振興に積極的に還元していく計画です。活動の様子はこれからもシリーズで報告していきます。

<スポーツ情報マスメディア学科>

硬式野球部2名がオリックス入団へ／指名あいさつ

オリックス・バファローズから2020プロ野球育成ドラフトで指名を受けた硬式野球部の宇田川優希投手（育成3位）、佐野如一外野手（育成5位）が11月9日（月）本学で牧田勝吾編成部副部長、佐藤真一スカウトより指名あいさつを受けました。

宇田川投手は「今日の話を聞いて、早く一流のプロ野球選手になって活躍したい気持ちが強くなりました。一番自信のあるストレートで、1年目から支配下に上げられるよう頑張りたいです」、佐野外野手は「夢を掴むチャンスを頂けたので、常に全力プレーを忘れず吉田正尚選手のようなフルスイングでファンを魅了できる選手になりたい」とそれぞれ抱負を話してくれました。



左から宇田川投手、佐野外野手、佐藤スカウト

高齢者向け運動指導を学ぶ／健康福祉学科

11月19日（木）に健康運動指導として「一般成人から高齢者まで～虚弱高齢者を含む教室の指導～」を健康福祉学科「健康支援・介護予防演習」の一環として行いました。

講師の渋谷祐子さん（Studioビットバレー代表）と坂上香里さん（健康福祉学科卒業生）は本学エアロビクダンス非常勤講師です。

坂上さんは、仙台市シルバーセンター等で高齢者運動教室等の指導をしています。

冒頭に高齢者の運動の特徴や意義について講話を受けた後、高齢者向けのストレッチや姿勢の調整、筋力トレーニングなどを学生が体験しました。特に虚弱高齢者の指導で心掛けることなどを具体的に教えていただきました。

学生からは「高齢者向けの運動でしたが、自分にもとても運動になった」「先生の言葉で、“子どもと違い、高齢者は自分で経験していないので、高齢者の気持ちはわかりづらい”というのが印象的だった」「教員だけでなく、運動指導の仕事もいいなと改めて思った」などの感想が聞かれました。

参加した学生はコロナの影響などによる筋力低下も実感し、運動の大切さと楽しさを再認識しました。健康福祉学科の「身体活動を通じて、全ての人をより健康、しあわせに」の理念にまた一歩近づけた演習でした。

<健康福祉学科>



渋谷祐子さん



坂上香里さん

日本生涯スポーツ学会第22回大会 本学よりオンライン配信で開催

10月31日（土）・11月1日（日）の二日間、配信元を本学としてオンラインによる学会大会を開催しました。本学では10年前の10月・第12回大会（対面式）を開催しましたので、2回目の開催でした。今回の大会テーマは、「東北より2020復興五輪への歩みと効果を検証する」としました。

当該学会にとって学会大会のオンライン開催は初の試みでしたし、配信させていただいた本学にとっても初の試みでした。そこで、学会とは直接関係しない情報関係に詳しいスポーツ情報マスメディア学科の藤本・溝上先生、スポーツマネジメントコースの井上先生及び大学院生にも実行委員会に入ってください準備を進めました。また、大会事務局長は馬先生に担当頂き、二日目のワークショップは溝口先生、昼のセミナーは池田先生にお願いするなど、オール仙台大学での運営となりました。一方、他の学会大会を参考に本大会専用のHPも立ち上げ、学会参加者にとって分かりやすい運営を試みました。おかげさまで、心配していた配信上のトラブル等も一切起こらず、参加者150名程度から高い評価を得て、二日間の学会を無事終えることができました。

本学会大会を再び本学で実施する事が決定した時、折角なので「復興五輪」を理念に掲げた2020東京オリンピック・パラリンピック開催の余韻が残る秋、本学にて対面式で開催し、その検証を試みる企画を立てました。しかしながら、世界的なコロナ禍の影響で開催自体が1年延期となってしまったので、「その歩みを検証する」という内容に変更させていただきました。また、復興を成し遂げてきた宮城県の現状を参加者の皆さんに見ていただく良い機会にもなると思っていたので、コロナ禍によるオンライン開催となった事は大変残念でした。

最後に、大会開催に際して多大な理解と協力を頂いた本学に深く感謝いたします。

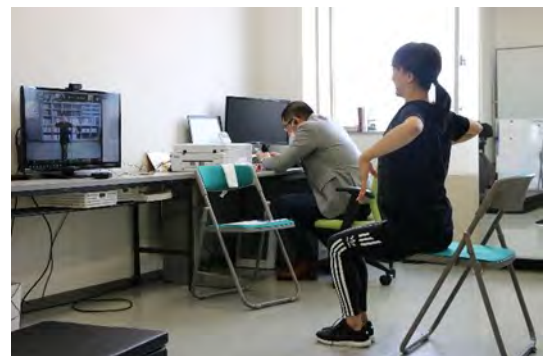
＜日本生涯スポーツ学会副会長・第22回大会実行委員長 仲野隆士＞



A501演習室を大会本部に設定し運営に関わって頂いた本学スタッフ（OB社会人含む）



基調講演・原田宗彦先生（早稲田大学）



エンジョイエクササイズ実施場面・溝口先生



シンポジウム実施場面・仲野（コーディネーター）



運営場面・馬・井上・藤本・溝上先生

12月の芝生管理と噴水周りの糞害について

1. 噴水まわりの天然芝の維持管理（暖地型日本芝生）

＊高麗芝生は休眠期に入り葉色が枯れ葉色へと変色し始めます。この時期は生育が止まるため刈り込み、水やり、肥料、病害虫の防除は必要ありません。

①草取り : スズメノカタビラやオオアレチノギクなどの冬雑草の発生が多くなり、芝の色が落ちるため目立つようになります。今月除草をしておく、春の雑草管理が楽になります。冬を越すと根が張ってとても抜き難くなるので、今のうちに抜根しておきましょう。

2. 第二グラウンド天然芝生ラグビー場・アメリカンフットボール場の維持管理（寒地型洋芝＋暖地型芝草）

＊今年の夏に旺盛だった暖地型洋芝（バミューダグラス）も休眠に入っており茶色部分が目立つようになってきました。10月中旬に播種した寒地型洋芝（南側はトルフェスク＋北側はペレニアルライグラス）は、芽出し時期の踏圧に対して、バミューダグラスに守られながら生育してきました。そのお蔭もあって利用頻度の少ない西側は緑色が目立ってきました。

①刈り込み : 気温の低下とともに生育が鈍ってきますが、播種が約1か月遅かったために成長過程にある芝草もあり、その成長している部分だけ僅かにカットが必要になっているので月に1回程度行います。

②水やり : 普通は必要ありませんが、木枯らしで乾燥している場合は行います。

③肥料 : ほとんど不要ですが、芝草の損傷が激しい時に僅かに施肥します。 参考文献：NHK趣味の園芸

1.B. 噴水周りの糞害対策

糞害対策として、10月上旬より、市販の獣除け液剤や粒剤を数種類試用したが、一向に効果が見られませんでした。

「ため糞」の習性をもつ動物の仕業だと考えカメラを設置して様子を見たところ、真夜中のキャンパスを自由に歩き回っている「中型の狸」が撮影出来ました。対象生物が特定されたので、寄せ付けない為の方法を考慮中です。現在はソーラパネルの電力で稼働する、赤と青色を断続的に発光する機器を2か所に設置し、様子を観察しています。



写真1 高い位置からの撮影、タヌキ？



写真2 低い位置からの撮影、



写真3 発光機器2基設置

漕艇部が宮城県副知事にエイト初優勝と男子総合2連覇を報告

10月に埼玉県戸田市で行われた、第47回ボート全日本大学選手権で男子エイト初優勝と男子総合2連覇を果たした漕艇部が11月12日（金）、宮城県庁に佐野好昭副知事を表敬訪問しました。

選手を代表して、信夫涼主将は「このコロナ禍でも、全日本大学選手権で絶対に勝つと決めて、皆で励ましあいながら取り組んできました。決勝は積極的なレースができ、優勝につながられました」と報告しました。

佐野副知事は「この度はおめでとうございます。今大会では7種目中6種目が3位以内という高い総合力で男子総合2連覇を達成された伺いました。これはたゆまぬ努力とチームワークの良さが発揮されたのだと思います」と選手をたたえました。



東北地方更生保護委員会委員長感謝状授与式

11月25日（水）本学LC棟で、東北地方更生保護委員会委員長感謝状授与式が開催され感謝状と記念品をいただきました。授与式では柴田地区保護司会会長の小橋実永様から長年に渡り本学におけるボランティア活動や地域見守りである子どもへの声かけ活動、船岡駅周辺の放置自転車の撤去や清掃活動等が、柴田町の治安改善に寄与されているとお褒めのお言葉を頂戴いたしました。また本学を東北地方更生保護委員会にご推薦いただきました船岡を明るくする会の加茂紀代子会長からも毎年40名以上のボランティアへ参加の学生に対し感謝のお言葉を頂戴いたしました。

来年度以降も地域の皆さまにお認めいただけますようボランティア活動見守り活動に尽力していきましょう。

<報告：学生支援センター>



川平キャンパスAT・S&Cレポート

「高校スポーツの安全を守る」Vol. 31

担当：浅野勝成助手

私：「昨日良い事あった？」
 生徒：「ないです！」
 数日後
 私：「昨日良い事あった？」
 生徒：「えーと、昨日食べた焼肉が美味しかったです！」
 数日後
 生徒：「浅野さん、昨日良い事あったので聞いてください！」

最近、生徒との間であったコミュニケーションの一つです。トレーニング開始直前、ちょっと元気がないと感じる生徒に対して声掛けの一つとして聞いたのが目的で、その時点では予想通りの「ない」という答えでした。その後、同じ質問を続けてみようと思い、数日後に聞いてみました。そして最終的には生徒から自発的に言ってくれるようになりました。この質問を続けたことで、生徒自身が「良い事」を自発的に探してくるようになり、ポジティブな気持ちでトレーニングに臨んだことがとても興味深かったです。

また、ここ最近のトレーニングでは目標を持って取り組むことをさらに強調しています。ある部活動に属する生徒全員に対し、来年の高校総体県予選までに懸垂を最低1回出来るようにするという課題を課しました。2週間前は、自力で懸垂できた生徒は2名のみでしたが、今週は5名まで増えました。課題を達成した生徒が増えると、トレーニング中の雰囲気は良くなります。ギリギリ達成出来そうな課題を設け、それを達成し、また新たな課題を設ける。このサイクルを繰り返すことで強い身体を獲得するだけでなくチャレンジすることが当たり前という空気感になり、チーム内での良い雰囲気を構築する一助になると思います。

ストレングス&コンディショニングコーチの役割は対象者の身体能力の向上が主ですが、そこだけではないと思います。生徒が課題に対して果敢に挑戦できるマインドを構築すること、目標達成に向けて改善する計画性および実行力を養うこと。それらはデータには表れないですが、生徒の成長に必要な能力の向上はトレーニングを通じてサポートしていくことも役割の一つと捉えています。